

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成24年6月 6日

愛知県知事 殿

提出者 株式会社LIXIL 榎戸工場
住 所 愛知県常滑市港町3-77
氏 名 工場長 平本 公彦
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 0569-42-2101

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社LIXIL 榎戸工場
事業場の所在地	愛知県常滑市港町3-77
計画期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	21:窯業・土石製品製造業
②事業の規模	工場売上高: 1,368,900万円
③従業員数	423人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1の通り

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項						
(管理体制図) 別紙2の通り						
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項						
①現状	【前年度（23年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥	ガラス・陶磁器くず	廃油	混合物
	排出量	45.56 t	69.27 t	1940.0 t	11.815 t	51.09 t
	(これまでに実施した取組) ・不良率の改善により汚泥、陶磁器くずの発生量を抑制。 ・単一廃プラスチックを廃棄する場合は、有価物として売却。 ・汚泥発生源の絞込み実施し、発生量を抑制					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥	ガラス・陶磁器くず	廃油	混合物
	排出量	70 t	100 t	1600 t	10 t	50 t
	(今後実施する予定の取組) ・不良率の改善を継続実施。 ・有価での売却先を探索。 ・分別を明確にして混合物処理量を削減。					
産業廃棄物の分別に関する事項						
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃プラスチック類、汚泥(脱水汚泥、廃石灰)、陶磁器くず(廃石膏、廃製品、廃焼成材料)、廃油、一般廃棄物、木屑、金属くずはそれぞれ分別し、保管している。					
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・混合物の分別を実施し保管予定。					

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項						
①現状	【前年度（ 23 年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥	ガラス・陶磁器くず	廃油	混合物
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	1136.3t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・不良率の改善により陶磁器くず(シェルベソ)の発生量を抑制。 ・製品に影響するため、保管状態等の監視を強化。					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥	ガラス・陶磁器くず	廃油	混合物
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	1000 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・不良率の改善を継続実施。					
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項						
①現状	【前年度（ 23 年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥	ガラス・陶磁器くず	廃油	混合物
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) ・特になし						
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥	ガラス・陶磁器くず	廃油	混合物
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) ・特になし						

(第4面)

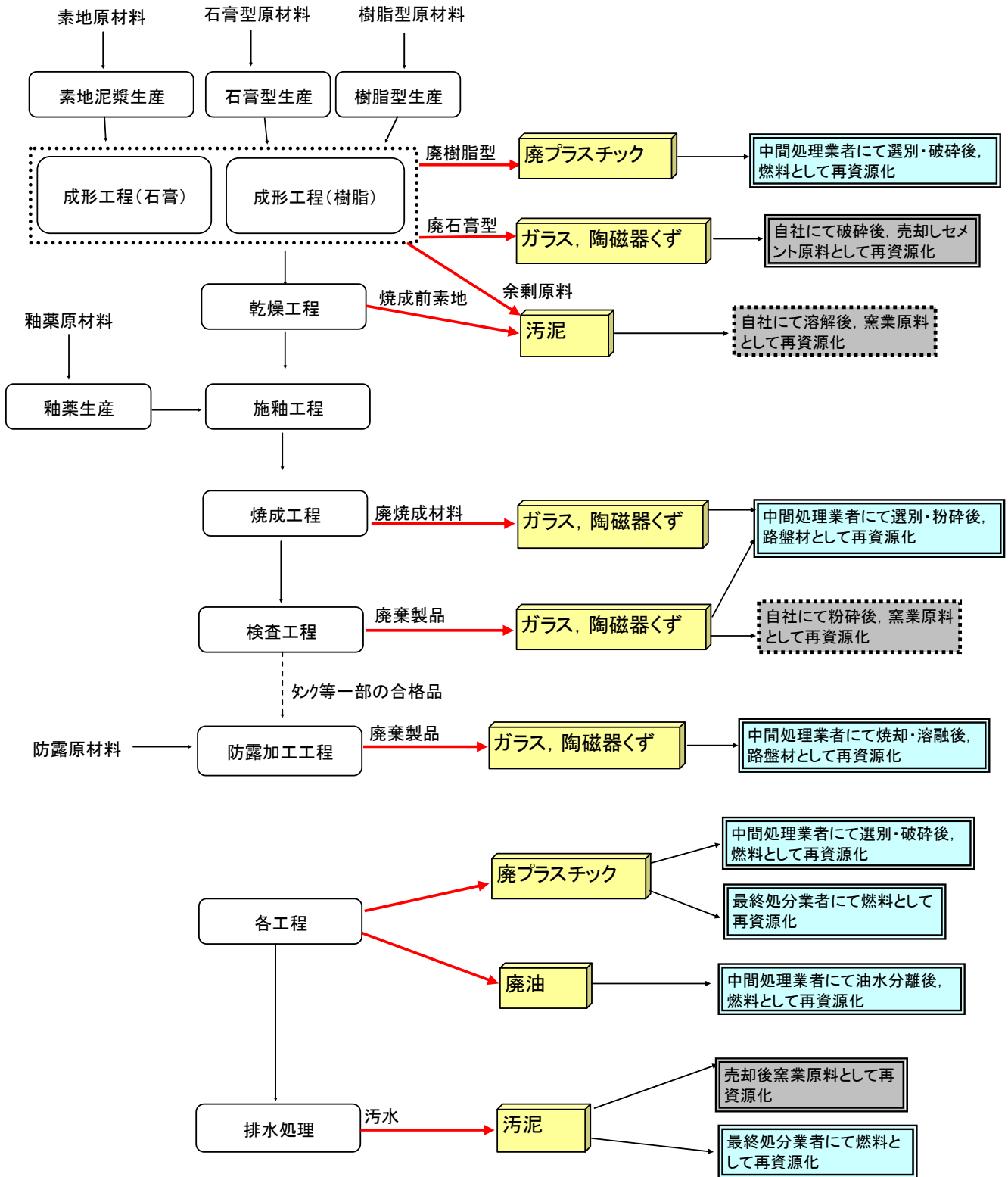
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項						
①現状	【前年度（ 23 年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥	ガラス・陶磁器くず	廃油	混合物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・特になし					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥	ガラス・陶磁器くず	廃油	混合物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・特になし					
産業廃棄物の処理の委託に関する事項						
①現状	【前年度（ 23 年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥	ガラス・陶磁器くず	廃油	混合物
	全処理委託量	45.56 t	69.27 t	90.53 t	11.815t	51.09 t
	優良認定処理業者への処理委託量	—	—	—	—	—
	再生利用業者への処理委託量	13.38 t	69.27 t	90.53 t	11.815t	51.09 t
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	32.18 t	—	—	—	—	
(これまでに実施した取組) ・異物混入防止のため保管場の管理を徹底。 ・油、異物等の混入による性状変化により有価物として売却不可とならぬよう日々の監視を徹底。						

②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	汚泥	ガラス・陶磁器くず	廃油	混合物
	全処理委託量	70 t	100 t	100 t	10 t	50 t
	優良認定処理業者への処理委託量	—	—	—	—	—
	再生利用業者への処理委託量	20 t	100 t	100 t	10 t	50 t
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	50 t	—	—	—	—
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有価物としての売却先を探索。 ・不良率改善による廃棄物の抑制を継続実施。 ・優良認定処理業者の確認と数値把握を実施。 						
※事務処理欄						

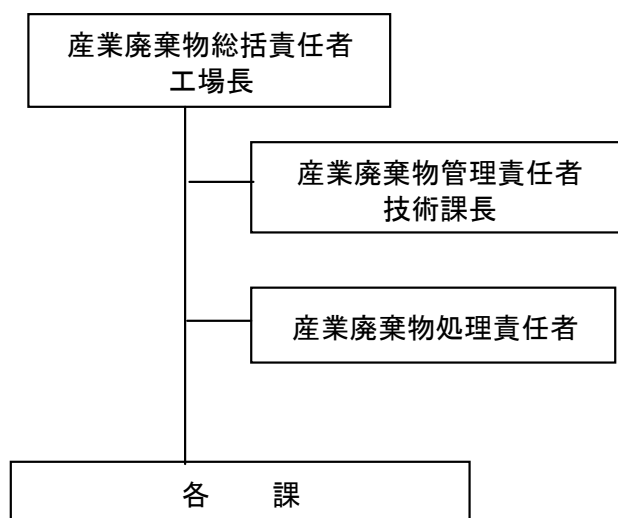
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1 産業廃棄物等発生工程フロー図



別紙2 産業廃棄物管理組織図



【責任と権限】

- (1) 産業廃棄物総括責任者 産業廃棄物管理に必要な業務が適切かつ円滑に実施させるよう所要の措置を講じ、かつ、その実施状況を監督するなどによってその業務を統括管理する。
- (2) 産業廃棄物管理責任者 産業廃棄物総括責任者の不在時は、総括責任者と同等の責任と権限を持つ。産業廃棄物の減量とその適正な処理の確保など、産業廃棄物に関わる業務を管理する。
- (3) 産業廃棄物処理責任者 産業廃棄物の減量について対策を講じ、その適正な処理を管理監督する。